

新型コロナウイルス感染症の感染拡大が地域経済に深刻な影を落とす中、昨年9月には「コロナ関連の失業者が見込みも含めて5万人を超えた」とのニュースが大きく取り上げられた。一方で、そうした深刻な事態を把握し、可視化することと共に、解決を図ることが重要な課題であり、そのために相談を待つのではなくアウトリーチによってつかむ努力が求められた。そこで、党府議団では、ハローワーク前などの街頭で、実態をつかむためのアンケート調査を行うことを確認し、議会の合間を縫って9月から12月までに計12回の活動を全議員・議員団事務局の参加とともに、市議員や国政候補、府委員会勤務員、京都総評の協力を得て実施し、これら掴んだ実態をもとに議会でも論戦してきた。さらに、10月以降は実態の深刻さを受けて、アンケート活動に加えて街頭で様々な相談にも応じられるよう、活動を発展・強化させた。

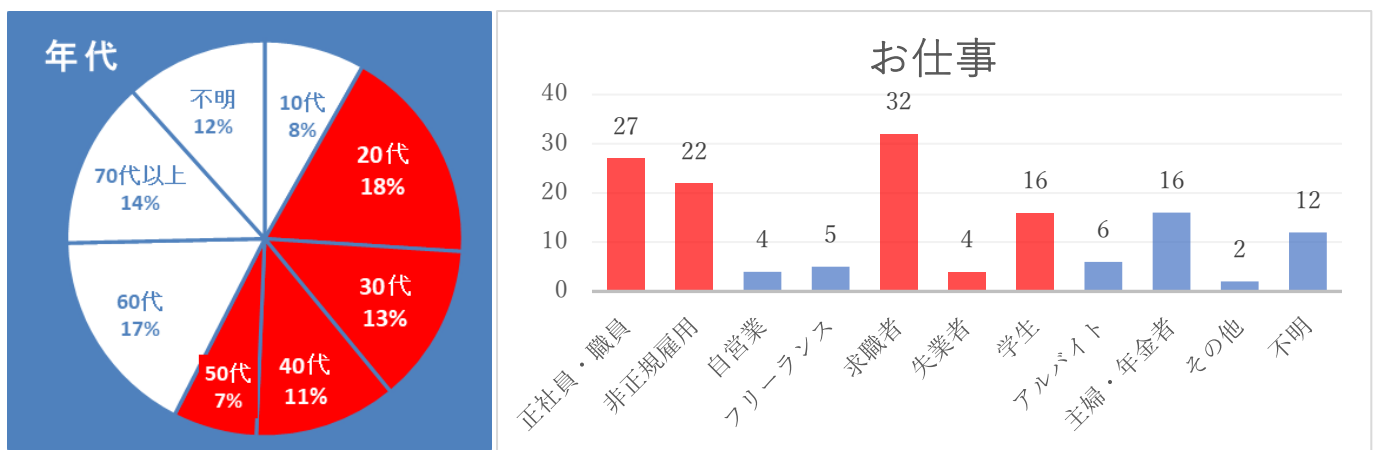
12回の活動の結果、のべ128人の参加で146人の方との対話・相談を行った。以下、3点についてその特徴をまとめた。

### <調査結果から見える現時点での特徴>

#### 1. 行政が実態をすすんで掴み可視化することの重要性が浮き彫りとなっている

京都経済を支える中小企業の実態は、各団体などの調査で一定可視化されてきたものの、京都府の労働相談所でも昨年4月ごろに殺到したコロナ関連の労働相談も減少するなど、長期化・深刻化する実態をどうつかむのかが大きく問われている。今回の調査では、回答者のうち20～50代が49%、正規・非正規、求職者、失業者が58%（学生・アルバイトを加えると73%）を占めており、一人ひとりの雇用の実態を一定まとまった形で把握し、明らかにするうえで、アウトリーチの取り組みが重要であると考えられる。

→今後さらなる事態の悪化が予想される中で、行政として、雇用の実態を把握するための特別の努力が必要であり、また、実態に見合った対策の実施を急ぐ必要があることが浮き彫りとなった。

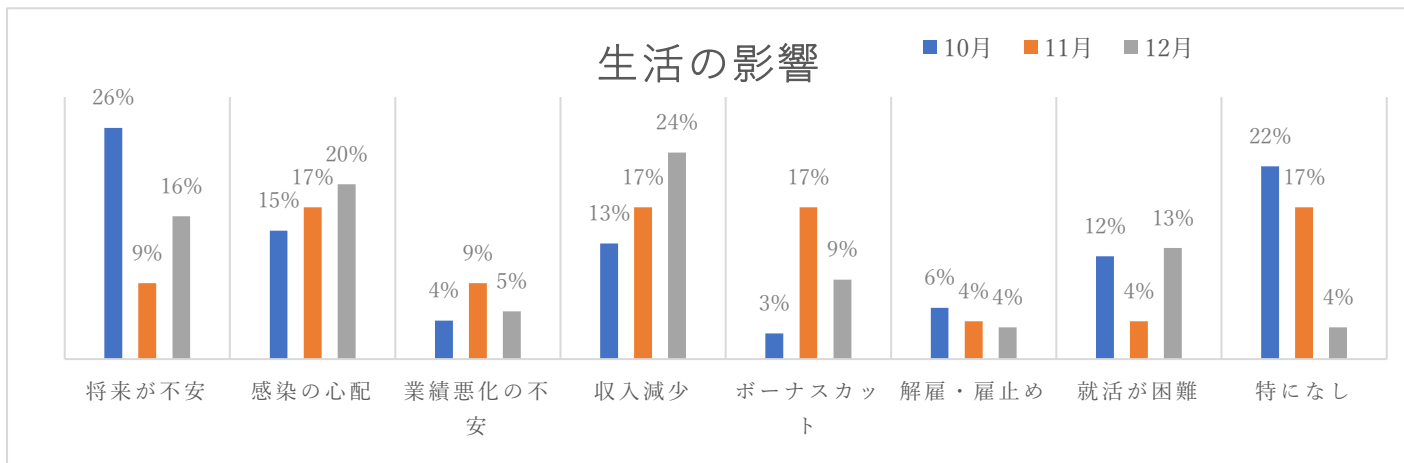


#### 2. 影響が遅れて現れることが裏付けられており、雇用の特別な対策が必要である

「生活への影響」の設問では、「将来が不安」「収入減少」の回答が12月に前月比で各7割上昇するとともに、10月以降「コロナによる解雇」「給与・賞与の減少」の声が増加し、求職期間も長期化が顕著になっている。こうした実態は、新型コロナ対策としての、持続化給付金や雇用調整助成金の特例、失業給付の60日間の延長などが、雇用を支える中小企業の経営や、失業者の生活を一定守る機能を果たしてきたものの、これらが期限を迎える中、状況が急速に悪化していることを示していると考えられる。

→2度目の緊急事態宣言とその延長など、長期化による影響は、さらに今後深刻な形で出てくるものと考えら

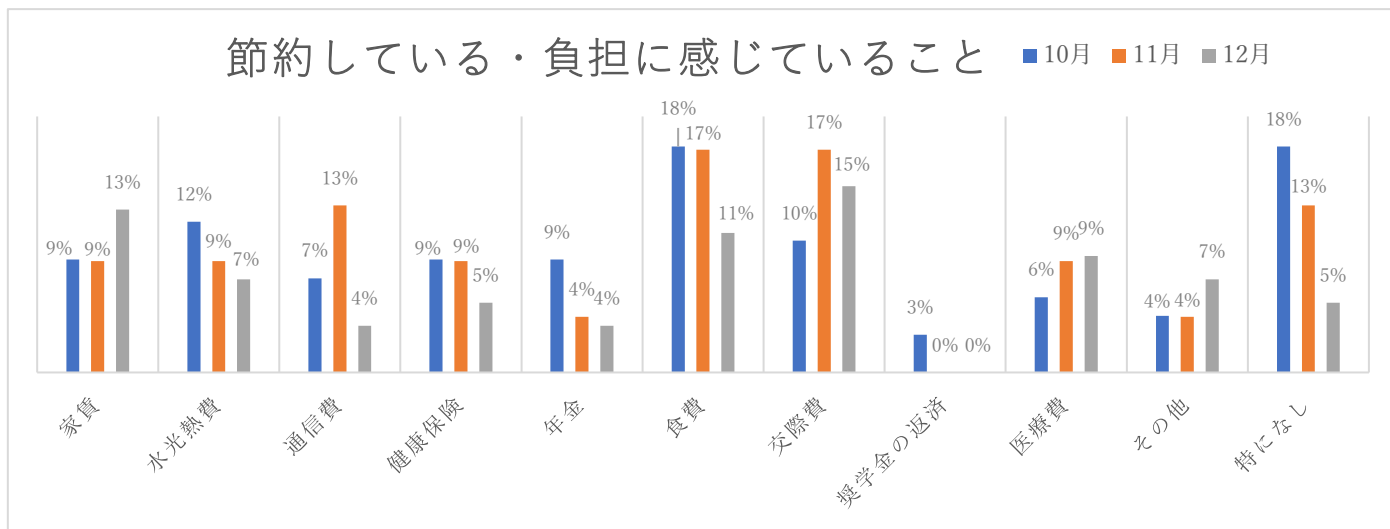
れる。そうした事態に備えて、雇用調整所施金の特例延長はもちろん、公的な支援策の抜本的な強化や雇用創出のための緊急基金の創設など、雇用を生み出す対策が急務と考える。



### 3.雇用の対策と合わせ、生活への支援、雇用を支える中小企業への支援が不可欠となっている

「節約・負担」の設問では、食費や交際費は10~18%とコンスタントに高いものの、12月にそれぞれ前月比2~6%減少している。一方で、「家賃」が12月に9%から13%へと増加している。こうした状況は、当初は、簡単に削ることのできない家賃ではなく、食費や交際費を節約しながら何とか生活を維持していたものの、影響が長期化する中で、食費・交際費の削減も限界となり、家賃の負担感が増している状況にあるのではないかと考えられる。実際12月には、街頭で数件の住居確保給付金の相談が寄せられている。

→生活保護の柔軟運用、住居確保給付金の継続・強化など、生活を面で支える対策の強化が求められている。持続化給付金の要件緩和と再給付、消費税減税、社会保険料負担の軽減など、中小零細事業者への底上げ支援が急務であると考えられる。



#### <実態調査概要>

9月9日(水) ハローワーク烏丸御池前 参加/10人 アンケート回答/10人

#### <特徴的な声>

- ・2月末に退職。生活福祉資金20万円×3ヶ月。失業手当3ヶ月。今後開業を考えている。(28歳/失業中)
- ・副業で看護師のパートをしているがその分の収入が減った。大学生の姪の授業がまともに行われていないのに、授業料が返ってこない。(49歳/正規労働者)

10月2日（金） ハローワーク烏丸御池前 参加／15人 アンケート回答／15人

<特徴的な声>

- ・求職中で雇用保険をもらっている。国保料が高く月3万円強。保険で（失業給付を）16万円ほどもらっているが、そこから3万円出ると考えると・・・困ります。（30歳／求職中）
- ・4月からホテル。営業はしていたが仕事はない。休業補償60%+ホテルの上乗せ。食料は半額のところを探している。（50代／非正規労働者）
- ・飲食店に派遣されていた。4月末更新だったが、中旬に雇い止めを通告。せめて1ヶ月前に言ってほしかった。（35歳／求職中）

10月15日（木） ハローワーク福知山・JR福知山駅前 参加／12人 アンケート回答／15人

<特徴的な声>

- ・コロナで外に行けない。仕事は減っていないが、飲食業なので接客での感染に気をつけている。（60歳／アルバイト）
- ・仕事はある。給料は減ってないが、ボーナスは減った。（大阪から来た会社員）
- ・夜の（タクシー）乗客が激減。昼でも半分くらい。まとまった休みがあり、休業補償はある。（66歳／タクシー運転手）

10月23日（金） ハローワーク京都七条前 参加／9人 アンケート回答／15人

<特徴的な声>

- ・観光案内の仕事。収入が1/3から半分に減った。観光客も修学旅行生も減少。昨年の今頃は書き入れ時で毎日仕事があったが今は週に2-3日。（60代／非正規労働者）
- ・眼科勤務。給料は2-3万円減った。夏のボーナスも減り、冬に出るか心配。（35歳）
- ・4-7月に居酒屋のアルバイトがなくなった。休業補償はでたが7月に営業再開してから出た。実家なのでなんとかあったが。（就職活動について）自分は19年中に（内定が）出たが、友だちはオンラインの就活で苦労している。（20代／大学生）

10月27日（火） ハローワーク西陣前 参加／5人 アンケート回答／6人

<特徴的な声>

- ・求職活動で週2-3日ハローワークに通っているが全然求人がない。いま、失業給付と貯金を崩しながら生活。（62歳／求職中）
- ・医療関係の仕事。有給休暇を使わされ“間引き労働”で給料も減。病院も減収のため。（40代／正規労働者）

10月29日（木） ハローワーク京都七条前 参加／7人 アンケート回答／7人

<特徴的な声>

- ・3月に卒業。4-5月職業訓練をして6月から就活しているが、全然決まらない。(21歳／求職中)
- ・8月まで働いていたが、首を切られた。駅に近いところで(仕事を)探しているが、高齢者で厳しい。(74歳／失業中)
- ・2年前に自己都合退職。ブラック企業で体調を崩した。今年から求職し始めたが、全然決まらない。この数ヶ月は求人がほんとに減っている。(51歳／求職中)

11月9日（月） ハローワーク烏丸御池前 参加／9人 アンケート回答／6人

<特徴的な声>

- ・歯科衛生士としてパートで働いていたが、コロナで患者が減り3月末で退職。失業給付を受けていたが、11月に切れるので急いで求職中。地元は金沢だが、娘が京都で下宿しているので、京都に出てきて仕事を探している。(50歳／求職中)
- ・3月まで大学事務。4月からずっと仕事を探してきたが見つからず。失業給付と貯金で暮らしてきたが、給付が切れるので仕方なくアルバイトで仕事を始めた。(30歳／非正規労働者)

11月16日（月） ハローワーク京都七条前 参加／10人 アンケート回答／16人

<特徴的な声>

- ・子供の保育園で感染があると仕事を休まないといけない。収入が減る。(30歳／正規労働者)
- ・ゲームセンターの店長をしていたが、コロナ失業。生活保護を受けながら求職。ハローワークに来ているが、全く仕事なし。特に障害を持っているので難しい。(42歳／求職中)

11月18日（水） JR二条駅前 参加／8人 アンケート回答／1人

<特徴的な声>

- ・通勤中の感染が心配。夫の冬のボーナスがなくなり大変。大学生の息子が、交換留学が決まっていたのに中止に。

12月24日（木） ハローワーク烏丸御池前 参加／12人 アンケート回答／7人

<特徴的な声>

- ・大学の非常勤講師でリモート（授業）の対応が大変。手当てもなくリモート対応を迫られている。非常勤で複数の大学を掛け持ちしている人は、大学ごとに違うシステムに対応して手間がかかる。(41歳／求職中)
- ・6月まで派遣でホテルやデパートに入っていたが、コロナで激減し解雇。失業給付が特例も含めて240日

あったがもう切れる。職業訓練に通いヘルパーの資格をとり仕事を探している。介護職なら人手不足なので採用があると思ったが、厳しい。(50歳/求職中)

12月25日(金) ハローワーク烏丸御池前 参加/15人 アンケート回答/22人

<特徴的な声>

- ・ようやく就職が決まった。以前の仕事はコロナで首を切られて、半年くらい求職してきた。でも正規ではなくアルバイトから。(34歳/求職中)
- ・今年9月から求職中。それまでは契約社員でアパレル関係で大丸内のテナントで勤務。大丸が閉まり大阪勤務と言われ、感染の心配と条件引き下げを言われやむなく退職。会社都合にしてもらい特例給付で330日の失業給付。実家暮らしでなんとかなっているが、アパレル販売を探しているがなかなか厳しい。(30代/求職中)
- ・コロナやテレワークの対応で普段必要のないシャドーワークが相当増えていて、それが管理職や気の利く女性にしわ寄せされている。テレワークの女性も「在宅ワークなら子どもを見られるだろう」とか「家で休んでるんじゃないの？」など普段なら言われるはずのない言葉を家族から投げかけられ、女性社員から離婚なども含めた悲痛な相談が寄せられる。本当にしんどい。(50歳/管理職)

12月28日(月) 三条河原町 参加/15人 アンケート回答/26人

<特徴的な声>

- ・美容師見習い3年目。コロナ対応は大変。基礎疾患のある人は3時間その方のためだけの営業や、閉店後に対応など相当気をつけている。高校で美術系の学校に行き300万円の奨学金を借りた。毎月2万円の返済。40歳まで続く。(21歳/正規労働者)
- ・京都市内の病院勤務。コロナも外来も受け入れているが、とてもじゃないが対応しきれない。なのにボーナスはカット。医療の人手不足は以前から、今になって騒いでいるがコロナで露呈しただけ。(現場の)使命感だけではやっていけない。(30代/正規労働者)
- ・感染が心配で買い物の回数を減らしているが、一度の買い物の荷物が重くなる。買い物支援が欲しい。(70代/年金生活者)